

令和 8 年度 入学 試験 問題

総合問題（生活・総合）

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答はすべて別紙解答用紙に記入しなさい。
3. 解答用紙は3 枚，草稿用紙は2 枚です。
4. 解答方法が論述方式の場合は、1 マス目から書き始め、1 文字空けた
り、改行したりせずに横書きで書き進めなさい。
5. 各解答用紙には、受験番号を記入する欄がそれぞれ1 箇所あります。
すべて記入しなさい。
6. 試験終了後、問題冊子と草稿用紙は持ち帰りなさい。

I 下記の文章を読み、問1と問2について答えよ。

Y市立O小学校には一つの伝統がある。生活科と総合的な学習の時間の授業を先生みんなで考えていくことだ。授業の質が高まり、若手が育つ。「一石二鳥」の取り組みだ。

先生だった両親の影響で同じ道を選んだA先生は、O小3年目。1年目から1年生の担任を任された。授業の進め方、給食や掃除のやり方など分からないことばかり。でも不安は小さかった。先輩に気軽に相談できたからだ。

「質問に行くと手を止めて答えてくれる。他学年の先生、教科の得意な先生、頼れる先生がたくさんいる」

若い先生が多いO小。今年度は臨時任用も含め33人のうち21人が教職歴10年以下だ。大学を出たばかりの先生も3人いる。校内で盛んな生活・総合の研究会を通して、若手たちは先輩たちからさまざまなことを学んでいく。

(中略)

年間テーマ案を持ち寄った4月下旬の研究会。「わくわくするテーマを子どもたち自身で選ばないと、子どもも先生も1年間つらいよ」。助言を受けたA先生は、担任する4年生の教室にあった「おからクッキー」の空き箱に子どもたちが関心を示したことを思い出し、「おから」をテーマに授業を作って相談した。

学びに広がりもあり、4年生でも十分できる——。研究会でそう言ってもらったものの、課題が残った。豆腐づくりの際に出るおからと、子どもたちをどう出会わせるかだ。「豆腐屋さんは忙しい」「クッキーではなく、純粹におからの方がいいのでは」など、研究会ではさまざまな意見が出た。まずは子どもたちでおからクッキーを作ってみた。

6月中旬の研究授業。手作りクッキーと市販のクッキーの味や食感などを比べて、改善点を探す内容だ。先生からの指名で最初に発言した児童が、次の児童を指す形で授業は進んだ。A先生は児童の考えを黒板に書き込んでいった。授業の最後、黒板にはクラスの意見が見やすく、スッキリとまとめられた。前日の放課後に3時間かけた「板書検討会」の成果だ。

「子どもたちが授業の最後にした『振り返り』を読むと、いつもにやにやしてし

まう。一人で授業準備していたら、ここまでできなかった。先生たちみんなで考えてくれたからできた」。A 先生は満足そうだ。

昨年度までの研究主任で、模擬授業を行ってきた B 先生の口癖は「いつでも聞きに来ていいよ」だ。忙しい中でも相談に来た若手と話し込むことがある。「『頑張って良かったです』と笑顔で言ってくれと、やって良かったと思う」と笑う。

(略)

出典：2023 年 6 月 27 日 読売新聞朝刊全国版 教育ルネサンス

この記事を入試問題作成のため、ある部分を省略し個人情報に関する部分を修正した。その他は原文のままである。

問 1 生活科と総合的な学習の時間の授業を先生みんなで考えていくことにより、なぜ「授業の質が高まる」のか。300 字程度で答えよ。

問 2 ここで紹介された O 小学校の事例を参考にして、若手教員が成長する学校文化とは、どのような学校文化なのか。300 字程度で答えよ。

Ⅱ 現行の小学校学習指導要領によると、生活科の目標は、具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育むことである。そのために9つの内容があるが、生活科の内容(7)は、以下のように示されている。

(7) 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

【資料】は、国内(長野県)のある小学校の1年生のアサガオ栽培実践の記録の一部である。この教室では、アサガオを一人ずつの植木鉢と教室前の花壇で大切に育て、子ども達はたくさんの花が咲くことを喜び、その後に実った種を取ることを楽しんだ。10月になり、アサガオの葉は落ち、茎は茶色になり、枯れた様子が認められた。担任が「アサガオの枯れた茎をリースにしよう」と子ども達に呼びかけたところ、「抜きたくない」と言う子どもがいた。そこで担任は、このままでいい(抜きたくない)という子どもと、抜いた方がいいという子どもの意見を聞く場を設けた。【資料】を読み、後の問1と問2について答えよ。

【資料：抜くか抜かないかの話し合いの実践記録 1年生の秋】

1 このままでいい

A児「抜いちゃえば、かわいそう。」

B児「まだ、種が取れるから 抜きたくない。」

C児「アサガオと 会えなくなる。」

D児「抜いちゃうと 種 取れないし、かわいそう。」

E児「せっかく 赤ちゃんから芽になって 葉っぱが出て 花が咲いて。枯れちゃっても 育てたい。」

F児「せっかく育てたのに 抜いちゃったら かわいそう。」

G児「緑色の種が まだあるから。」

H児「アサガオが せっかく 頑張って育ったのに、抜いちゃえば 死んじゃって、お水ものめなくて、かわいそう。」

2 抜いたほうがいい

I 児「種あるから 来年も咲かせられる。抜きたい。リースを作って、おかあさんに届けたい。」

J 児「抜いたのでリース作りたい。」

K 児「種をまた取って、来年も いっぱい花を咲かせたい。抜いたのでリースを作りたい。」

L 児「リースを 作ってみたい。」

M 児「リースを作って、お母さんに届けて、飾ってもらいたい。」

N 児「クリスマスのリースを作りたい。どんぐりや 松ぼっくりを つけて。」

O 児「リースを作れば、いっしょに 過ごせる。」

問 1 【資料】の 1 このままでいい という考えを持つ児童と 2 抜いたほうがいい という考えを持つ児童の発言を取り出し、生活科の目標や(7)動植物の飼育栽培の内容の観点から学びの意味を考察し、自分が教師になったつもりで価値づける言葉とその意図を 450 字程度で述べなさい。

問 2 あなたは、生活科の栽培活動において、どのような教師の支援が大切だと思いますか。資料の児童の発言を引用しながら、自分の考えを明確にし、その理由を含め、300 字程度であなたの意見を述べなさい。